

河川環境管理財団ニュース

News Letter from Foundation of River & Watershed Environment Management

「河床年表」の刊行を望む

本年は、夏期の異常気象が新聞やTVで幾度も取り上げられ、日常的な話題にもよく上った。それは、6月からの猛暑と台風の襲来に始まり、7月12日～13日と17日～18日には、梅雨前線の停滞に起因する豪雨によって、それぞれ新潟・福島、福井で近年稀な多数の人命損失を伴う甚大な洪水被害を蒙った。また、猛暑の方は9月下旬まで続き、全国各地で最高気温や真夏日の連続日数・合計日数が過去の記録を更新した。さらに、台風についても、9月下旬までに8個が日本列島に上陸するという195年以來 1位の記録をつくり、四国、中国、南紀から北海道までの各地で、強風、高潮、豪雨による被害が発生した。

一方、海外においても、8月半ばと9月中下旬にハリケーンが3回にわたってフロリダ、メキシコ湾岸、ハイチなどで猛威を奮い、また、インド東北部やバングラデシュでは1988年以來最大の洪水氾濫があり、中国・浙江省、西ベンガルなどでの広範囲に及ぶ洪水災害も報ぜられた。

このように、昨今、異常気象と台風や豪雨による急激な災害に関心が寄せられているが、一方で1960年代から進行している、河床低下や海岸侵食などの地形変化と水害および環境に対する影響にも注目する必要がある。河床低下については、洪水時における河川構造物の変状や破壊等の直接的被害のほか、海水の遡上や地下水位に対する影響、河道の深掘れや樹林化による生態系の変化など、河川環境への影響が問題になっているが、河床低下は地盤沈下と同様にその影響範囲が大きく、回復させるための対策も難しいだけに、

早急に取り組むべき課題である。

しかし、こうした河床低下の進行と水害や環境への影響については、全国的な視野からの系統的な検討がなされていない。これは、一つには河床の経年変化が、「雨量年表」、「流量年表」、「水質年表」のように、「河床年表」として定期的に刊行されていないことにあると考えられる。かつて、30年程前に、建設省・中部地建管内において「河床年表」が数年間だけ刊行されており、それを活用したことがある。しかし、当時の河床変動には不確定な砂利採取の影響が支配的で、河川の土砂収支や洪水による河床変動の応答を検討するには問題があった。最近では、こうした人為的影響も軽減されており、また、高容量のデータ・ベース化とその処理が容易になっているので、河床の縦横断や平面測量データ - の収録とともに、河床変動の代表値（最深河床高とその位置、平均河床高など）の規格化も可能であろう。勿論、河床のデータは、雨量・流量・水質のそれと異なって、洪水履歴に配慮した資料の収集と編集をする必要があるが、「河床年表」の刊行は、最近、検討が進んでいる流域の流砂系としての土砂動態やダム排砂の研究に拍車を駆けるであろうし、また、土砂収支や河床および流路の変動予測のコンペを企画し、流砂解析の精度向上を期するの一法と思う。

河川環境管理財団 研究顧問
村本 嘉雄



ニュースの項目

- | | | |
|--|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・「新潟・福井水害」緊急調査に河川整備基金を助成（制度初適用） P2 ・河川整備基金の基金事業「流水・土砂の管理と河川環境の保全・復元に関する研究」成果発表会開催 P2 ・第11回 河川整備基金助成事業成果発表会の開催 P2 ・子どもの水辺ブロック連絡会議 P2 ・世界子ども水フォーラム・フォローアップ in 宮城 P3 ・水夢キッズの夢実現 P3 | <ul style="list-style-type: none"> ・水辺を活かした環境学習や体験学習に関する全国事例研修会開催 P4 ・川の指導者養成講習会 P4 ・川に学ぶ体験活動協議会の第4回全国大会 P4 ・千歳川自然観察会を開催 P4 ・河川と下水道の連携を中心とする都市水路検討会 P5 ・河川、湖沼底質中のダイオキシン類簡易測定マニュアル（案） P5 ・湖沼管理のための流動機構調査講習会開催 P5 ・第13回 河川環境勉強会 P5 ・天塩川旧川の魚類調査 P6 ・スーパー堤防整備に伴う植生調査 P6 | <ul style="list-style-type: none"> ・芦屋川の河底横過トンネル工事に係る環境調査検討 P6 ・変革と水の21世紀への提言 P7 ・財団の研究成果を「河川と栄養塩類—管理に向けての提言」として出版 P7 ・河川砂防工事における木材活用工法ガイドブック（案）の発行 P7 ・H16年度（財）日本宝くじ協会の助成事業 P7 ・第24回 川の写真コンクール表彰式及び展示会の開催 P8 ・河川整備基金にご協力ありがとうございます P8 ・財団の体制 P8 |
|--|---|--|

「新潟・福井水害」の緊急調査に 河川整備基金を助成（制度初適用）

本年7月中旬に新潟県、福井県を中心に発生した豪雨災害では、両県の各地で堤防が決壊し、ともに多くの家屋・人的被害を被りました。

河川整備基金助成事業の調査・試験・研究部門には「都市機能の麻痺、影響の全国波及等をもたらした甚大な水害に関し、緊急に調査・研究を実施し、今後の河川整備などに関する提案等を行う」という水害緊急調査に対する助成制度があります。

（社）土木学会・平成16年7月北陸豪雨災害緊急調査団（团长：金沢大学玉井教授）が「被災の実態分析や今後の治水対策・地域防災に資する提言をとりまとめる」ことを目的とした調査を実施しておりますが、当該調査にこの河川整備基金の助成制度が適用されることとなりました。ちなみに、平成13年度の助成事業募集要項に当該助成制度が盛り込まれて以来、初の制度適用となりました。

なお、上記（社）土木学会の緊急調査につきましては10月27、28日に都内で開催される「河川整備基金助成事業成果発表会」の場において团长の玉井先生から中間報告が行われる予定です（成果発表会案内の記事参照）。

（この他、（社）地盤工学会の福井豪雨による地盤災害の緊急調査団（团长：福井大学荒井教授）の調査への助成も決定しております。）（担当：研究第1部）

河川整備基金の基金事業「流水・土砂の管理と河川環境の保全・復元に関する研究」成果発表会開催

河川整備基金による調査研究事業として、平成14年度から2年間にわたり、「流水・土砂の管理と河川環境の保全・復元に関する研究」を実施してきました。本研究では、河川環境に関わる流水・土砂の管理と河川の生物・生態系の保全・復元に必要な基礎的、実際の知見を得ることを目的として研究を進め、その成果をとりまとめました。

この度、本研究成果を広く活用していただくため、下記により発表会を開催し、その成果を執筆者の方々に報告していただくとともに、参加者の方々と討論を行い、この分野の調査研究の一層の進展を図ることと致しました。ぜひ皆様御参加下さい（参加費無料）

1. 開催日時：平成16年12月16日（木）
13:30～17:30
2. 開催場所：発明会館ホール（港区虎ノ門2-9-14）

*参加申込、問い合わせ先：（財）河川環境管理財団

研究第1部：高橋、大阪研究所：習田しゅった

第11回 河川整備基金助成事業 成果発表会の開催

この発表会は、河川整備基金助成事業の成果ができるだけ多くの方々に共有の財産として広く活用されるとともに、助成事業の一層の充実に寄与することを目的に開催しています。本年度も10月27日（水）と28日（木）の2日間、発明会館（東京都港区虎ノ門）で開催します。詳細なプログラム・参加申し込み方法・会場案内図は、ホームページ（<http://www.kasen.or.jp/>）の"お知らせ"をご覧ください。皆様のご参加をお待ち申し上げます。（参加無料）

10月27日（水）受付開始9:00 開会9:30

1. 川の生態環境に関する調査・研究

座長：埼玉大学大学院理工学研究科教授 浅枝 隆

2. 新潟・福井水害緊急調査中間報告

報告：（社）土木学会調査団团长 金沢大学工学部教授 玉井信行

3. 川への理解を深める活動・河川環境教育の展開

司会：（財）河川環境管理財団常務理事 山本雅史

10月28日（木）受付開始9:00 開会9:30

4. 防災・危機管理・市民連携など川と地域社会の係わりに関する調査・研究

座長：立命館大学理工学部教授 江頭進治

5. 指定課題助成研究（河川の測定技術に関する研究、河川環境の評価手法に関する研究）

座長：（財）河川環境管理財団 河川環境総合研究所長 山本晃一

6. 水環境に関する調査・研究

座長：東京大学大学院工学系研究科教授 古米弘明

（担当：研究第1部）

子どもの水辺ブロック連絡会議

子どもの水辺サポートセンターでは、「子どもの水辺再発見プロジェクト」のより一層の推進を図るため、これまで全国の地方整備局単位で「子どもの水辺ブロック連絡会議」を開催してきました。残りの北海道ブロックと四国ブロックの連絡会議を下記の日程で開催します。

北海道ブロック連絡会議

日時 平成16年10月21日（木）13:00～17:30

場所 ホテルポールスター札幌 2階ポールスターホール他
札幌市中央区北4条西6丁目 : 011-241-9111

四国ブロック連絡会議

日時 平成16年11月11日（木）13:00～17:30

場所 サン・イレブン高松4階大ホール他
高松市松福町2-15-24 : 087-823-4550

（担当：研究第1部 環境教育班）



北陸ブロック連絡会議の様子

世界子ども水フォーラム・フォローアップ inみやぎ宮城



平成15年3月に開催された「世界子ども水フォーラム」のフォローアップ大会を昨年の広島に続き、宮城県花山村で「世界子ども水フォーラム・フォローアップ inみやぎ宮城」として7月30日から8月1日の3日間開催し、69名の中・高生と10名のファシリテーター（子どもたちを直接指導する人達を養成する者）が参加しました。（担当：研究第1部 環境教育班）

水夢キッズの夢実現

夢部門（大阪府堺市）

子どもの水辺サポートセンターが実施している「第2回 集まれ！水夢きッズ」の小・中学生からのアイデアを募った『夢部門』で、大阪府堺市立浜寺小学校5年生、田仲陽子さん手づくりの「石津川の鳥カルタ」が「水夢きッズ賞」を受賞し、石津川の現地で友達や関係者による鳥の観察会と印刷したカルタの贈呈式が8月5日に行われました。

企画部門（熊本県大津町）

学校職員やNPO等の市民団体からのアイデアを募った『企画部門』では、熊本県大津町立大津南小学校の熊谷和信先生の「白川の水辺をイベント広場にしよう」が「水夢きッズ賞」を受賞し、7月14日に大津南小学校6年生全員42人が近くの白川で泳いだり、カヌーやボートを体験しました。

（担当：研究第1部 環境教育班）



鳥の観察会と贈呈式の様子



水辺を活かした環境学習や体験学習 に関する全国事例研修会開催



全国の小・中・高など各学校において総合的な学習の時間に実施されている事例を中心とした第3回「水辺を活かした環境学習・体験学習に関する全国事例研修会」を、国立オリンピック記念青少年総合センターで8月10日に開催しました。

(担当：研究第1部 環境教育班)

川の指導者養成講習会



子吉川での講習会の様子



雄物川での講習会の様子

子どもたちを水辺に誘い、安全に環境学習や体験活動を実践・普及していくためには、川の危険性を正しく理解し伝えられるスキルを身につけた指導者が不可欠です。そこで、河川環境教育推進に関わる業務の一環として指導者養成講習会を開催しています。

本年度は、秋田県の雄物川と子吉川で開催しました。今後、四国の吉野川と熊本県の菊池川でも開催する予定です。

(担当：研究第1部 環境教育班)

川に学ぶ体験活動協議会の 第4回全国大会

川に学ぶ体験活動協議会（通称：RAC）第4回全国大会が、日野川流域の福井県武生市、今庄町などを会場として『かわど川人の共感』をキャッチフレーズに、8月21日～22日に開催されました。

全国から約100名のRAC関係者と地元参加者を合わせ約300名が参加し、特別企画では福井豪雨の報告があり、水害の脅威を再認識しました。

(担当：研究第1部 環境教育班)



千歳川自然観察会を開催

河川愛護啓発活動の一環として毎年行われている、「千歳川自然観察会」(主催：千歳サケのふるさと館、共催：千歳川河川事務所)が、夏休み中の7月30日に開催され、小学校4年生から6年生までの子どもたちが参加しました。

「千歳川はきれいかな？」をテーマに、水生生物による水質判定とパックテストを使った水質検査を体験しました。観察した生き物の名前を熱心に野帳に書き込み、千歳川のきれいさを再確認しました。

また千歳川の支流漁川(いざりがわ)では、投網やタモ網などを使い、夢中になって魚を追いかける子どもたちの姿が印象的でした。

(担当：北海道事務所)



河川と下水道の連携を中心とする 都市水路検討会

東京では、河川・水路などの水面が、江戸時代に比べ半分にまで減少したと言われるとおり、現代の都市は水路を暗渠化、埋め立てすることにより高度な土地利用を可能とし、機能的な都市空間を生み出してきました。

都市における水路は、まちづくりの中で重要なアクセントとなるばかりでなく、水と緑の潤いのあるオープンスペースとして貴重な自然空間を形成する機能、周辺と一体となって魅力的でにぎわいのある空間を創出する機能、あるいは災害時の防災機能など多面的な機能を有するものです。

最近、都市再生をめざすまちづくりの中で、都市における水路が注目され、水路・水面の復活についての様々な取り組みが全国各地で始まっています。

こうした状況を踏まえ、学識経験者等からなる「都市水路検討会」(座長：井上和也京都大学防災研究所長)が設置されました。本検討会では、まちづくりと一体となって都市の水路を保全、再生、創出するために、最も関係の深い河川と下水道を中心に、都市における水路のもつ役割を再評価し、その活用及び水量の確保に向けての現行制度の課題と法制度を含む新しい制度のあり方について検討を行うものです。

(担当：研究第2部)

河川、湖沼底質中のダイオキシン類 簡易測定マニュアル(案)

河川、湖沼において基準値を超えるダイオキシン類汚染が判明した場合、底質のダイオキシン類対策を実施するにあたり、汚染対策の一環として汚染範囲の確定作業の実施が必要となりますが、公定法によるダイオキシン類の測定には多額の費用と時間を要することが問題となっています。しかしながら、ダイオキシン類の簡易測定法について具体的にまとめたマニュアル等は存在しません。

こうした状況を踏まえ、学識経験者等からなる「底質ダイオキシン類簡易分析法検討会」が設置されました。本検討会では、底質ダイオキシン類測定に関する技術を広く一般に募集し、それらの技術を用いて実際の試料を分析するとともに、簡易測定技術の選定及び評価の検討が行われました。

検討会での成果は「河川、湖沼底質中のダイオキシン類簡易測定マニュアル(案)」としてとりまとめられ、平成16年7月に国土交通省河川局河川環境課により全国に周知されました。(担当：研究第2部)

湖沼管理のための流動機構調査 講習会開催

湖沼では、湖水の入れ替わり、密度層の形成や変化などの流動現象を十分に把握した上で水質の問題を議論していかないと問題現象を解決できないという考えに基づき、官学共同の「湖沼技術研究会」(座長 福岡捷二 当時、広島大学大学院工学研究科教授)が設置されました。

この研究会では、これまで実施してきたわが国の代表的な湖沼における流動現象と、水質や生物への影響に関する調査研究成果をとりまとめるとともに、湖沼の流動現象とその影響及び湖沼の流動調査技術の紹介を行い、今後の流動機構研究と総合的な湖沼管理のあり方について提言されたものが「湖沼管理のための流動機構調査 より高度な湖沼管理に資するための調査に向けて 平成15年3月」としてとりまとめられました。

湖沼の流動機構について体系的にとりまとめられた書籍は少なく、本書は今後の湖沼の解析や管理に有効に活用できるものであり、関係者に広く周知することが望まれます。平成15年9月には各地方整備局や各都道府県の担当者を対象に東京で講習会を開催しました。今回は、前回対象者に加えてコンサルタント技術者及び大学研究者も対象に、第2回目の講習会を7月13日に大阪で開催しました。

(担当：研究第2部、大阪研究所)

第13回 河川環境勉強会

当財団では、河川環境について新しい知見の習得と蓄積を目的に、平成14年度より定期的に外部講師を招き勉強会を開催しています。

今回は平成16年10月1日、国土技術政策総合研究所河川研究室長の末次忠司先生をお迎えし、当財団内会議室において財団内外から約70名の参加を得て開催しました。

末次先生には『河川環境復元のための物理基盤の修復 - 多摩川永田地区を対象に -』と題して、冠水頻度や土砂供給量の減少等により失われた礫河原やこれらを基盤とする植物を復元するための研究をご紹介いただきました。高水敷の切り下げや置き砂がどんな効果を生むのか工学的見地から詳しくご説明頂き、また研究成果を現場に活かそうとする強いご意志を感じることができました。

ご講演頂いた末次先生、ご来場頂いた皆様に厚く御礼申し上げます。(担当：研究第3部)

天塩川旧川の魚類調査



紋穂内湖

天塩川は、治水工事によるショートカットで本川から切り離された旧川（三日月湖）が多く残されています。これらは年月を経て独自の自然環境を形成し、貴重な水辺空間は地域の人々の憩いの場となっています。

これらの中で天塩川中流部、美深町の紋穂内湖（もんぼないこ）では、かつて天塩川に生息していたチョウザメの増殖・研究活動が行われています。また周辺部は道の駅、オートキャンプ場、温泉施設などが整備され、年間約70万人に利用されています。しかし、利用が進む一方で、湖内の水質が悪化する傾向にあり、良好な自然環境の維持・向上のための取り組みが望まれています。

そこで、紋穂内湖など旧川の現況を把握するための魚類生息調査を夏季に実施した結果、フナ属など閉鎖性水域を好む多くの魚種が確認されました。また、紋穂内湖では過去に放流されたチョウザメの生息も確認されました。

これらの結果をもとに、旧川の水環境保全のための対策検討などを行っていく予定です。

（担当：北海道事務所）

スーパー堤防整備に伴う植生調査

大和川の高規格堤防整備（スーパー堤防）により大きく形状が変化する堤防法面は、近年、都市部では貴重な生態環境を有していることに着目し、緊急的に堤防の植生調査を実施することになりました。

スーパー堤防整備に先立ち、大阪市生野区瓜破西地先の大和川右岸堤防において、今回重点的に調査を行うことにしました。この地域には、レッドデータブックで絶滅危惧類（VU）に指定されているヒキノカサ（4月頃開花）や、大阪市内では珍しくなった秋花のワレモコウ、ツルボが自生しています。田園ではしばしば見られた草花が、開発や農薬等の影響でだんだん少なくなり、除草管理をしている堤防にわずかに残る程度となっています。

ツルボが咲く9月初旬に、ワレモコウと共に植生分布・密度等の観測調査を行い、来春実施するヒキノカサ

等春草の分布調査とあわせ、スーパー堤防整備による植生適地の変化に対する対策を検討していくことにしています。（担当：大阪研究所）



大阪市平野区瓜破西地先

群生するツルボ

芦屋川の河底横過トンネル工事に係る環境調査検討

芦屋川河床下をトンネルで横過する山手幹線の道路建設計画が進められています。芦屋川は、河川延長が4.5kmと短く、河床勾配が急な河川で、横過予定区間は三面張り河道となっています。トンネル建設は、オープンカットで行うことが考えられており、工事による動植物の生息環境・濁水等の影響が懸念されています。

この業務は、工事による水生生物への影響をみるための現状調査を行い、工事の影響評価と影響軽減対策の提案を行うものです。工事範囲には特に淵等は形成されていないが、魚類・底生生物などの移動性を考慮して、工事区間の上下流部の淵も調査しました。なお、魚類調査は市民団体の「芦屋川に魚を増やそう会」に協力して頂きました。植物については、工事区間を含む約800m程度の植生を調査しました。調査結果および評価は年内を目途に、市民に分



芦屋川工事区間の河川状況

かりやすい説明資料としてもとりまとめる予定です。
(担当：大阪研究所)



下流部落差工下ブル部の調査（投網）

変革と水の21世紀への提言

わが国が、持続的に活力を維持しうる、水を中心とした社会システムのあり方を検討するため「21世紀の社会システム、国土管理のあり方に関する研究会（座長：丹保憲仁放送大学学長）」が平成14年に設置されました。この研究会では、従来の社会システムに起因する様々な問題点を明らかにしたうえで、世界的な水資源を始めとする、資源の制約や地球規模の環境問題の増大など、2世紀社会を脅かす現象を示し、大量消費型社会から化石エネルギーなどの非再生エネルギーをあまり使わない、太陽エネルギーによる自然循環を重視する社会を志向する、水から見た社会システムの転換の必要性和、その有効性が提示されました。また、わが国の経験を踏まえて、水に着目した国際社会への貢献についても議論がなされました。

これらの内容は「変革と水の21世紀への提言」としてとりまとめられ、国土交通省河川局河川環境課から平成16年8月に公表されたとともに、11月中旬に出版される予定です。（担当：研究第2部）

財団の研究成果を 「河川と栄養塩類 管理に向けての 提言」として出版

河川整備基金による事業として、平成13年度から2ヶ年にわたり「栄養塩類濃度が河川水質環境に及ぼす影響に関する研究」を実施してきました。本研究では、河川水中に増加しつつある栄養塩類について、河川の親水性や水生生物への影響度を解明し、将来の課題を踏まえて、今後の河川水質管理への提言としてとりまとめました。この提言の内容は近く出版される予定です。

この著書は、今後の河川水質管理のための取り組みについて、研究成果報告書を執筆していただいた研究会座長の大垣眞一朗先生をはじめ各委員の先生方よりとりまとめられたものです。（担当：研究第2部）

河川・砂防工事における 木材活用工法ガイドブック(案)の発行

河川等における環境対策推進検討委員会（委員長：山本晃一当財団河川環境総合研究所長）で、平成13年度から検討を進めてきた「間伐材等を積極的に活用するための河川・砂防工事における木材活用工法」の成果をとりまとめ、このたびガイドブックとして出版します。

木材活用工法に関する図書は、事例集としてまとめられたものはいろいろあるものの、工法の持つ効果、川の特性と適用の関係、工法採用の基準などについて述べられているものが少なく、各方面から期待の高かったものです。今後充実させていく部分もありますが、維持管理面を含めて、工法採用、工法適用の考え方を整理しましたので、ぜひとも各位にご一読いただくとともに、木材活用工法の普及に役立てていただければ幸いです。（出版：山海堂 URL <http://www.sankaido.co.jp>）

（担当：名古屋事務所）

H16年度 （財）日本宝くじ協会の助成事業

本年度は、総額500万円の助成をいただき、「河川環境に関する国民、児童・生徒等への普及啓発事業」として、次の3種類の小冊子を発行します。

〔川の水〕

中・高・大学生を主体に、一般の人も対象にして、河川の水環境の状況、豊かで親しみのもてる河川環境づくりの施策、水質浄化事業や住民の水質改善への取り組み事例の紹介など、水環境への理解と意識の向上・啓発を図ることを目的に作成し、全国の中・高・大学、教育委員会、自治体、関係省庁等に配布する予定です。

〔水辺から学ぼう〕

小・中学生及びその指導者、川や水に関心のある一般の人などを対象にして、自分たちの身の回りの問題から川と水を考えるきっかけやヒントを与えるワークシート方式の河川環境学習教材を作成し、学校教育や社会活動に活用することにより、子供たちをはじめ広く一般の人々に水や河川環境に対する理解と認識を深めてもらうことを目的に作成し、全国の小・中・高・大学、教育委員会、市民団体、自治体、関係省庁等に配布する予定です。

〔川の民話集〕

主に小学校高学年の児童を対象にして、当財団発行の「川の本」に掲載した全国の地域に伝わる「川にまつわる民話」を集大成。子供たちに日常生活や情緒面から川を考えるきっかけを与えるとともに、川の恵みと怖さ、先人達の川に対する思い、努力や苦勞、知恵の数々などに触れさせる。それにより、水や河川環境に対する関心をもたせ、さらには川の学習や活動の一助となることを目的に作成し、全国の小学校に配布する予定です。

（担当：企画調整部）

第24回 川の写真コンクール 表彰式及び展示会の開催

このコンクールは、河川愛護の思想を広く持って頂くため、国土交通省関東地方整備局と(財)河川環境管理財団が、河川愛護推進行事の一環として開催しているものです。

次世代を担う関東地方の小・中・高校生を対象として、川にまつわる写真を広く募集するもので、今年からデジカメでも応募できるようにしました。

今回の応募作品は、7,542点と回を重ねるごとに増加してきています。なお、実施にあたっては、審査員を写真家の長野重一氏、福島武氏及び佐々木崑氏にお願いし、教育委員会、読売新聞社、NHK、コダック(株)など、多くの方々にご理解とご協力を頂いております。

表彰式・展示会の予定は、次のとおりです。

- ・表彰式 11月14日(日) 東京商工会議所 国際会議場(7階)
- ・展示会 11月14日(日)～17日(水)
JR東京駅丸の内北口ドーム
12月1日(水)～26日(日)
手賀沼親水広場・水の館
翌年1月17日(月)～24日(月)
群馬県庁(1Fロビー)
翌年2月5日(土)～3月6日(日)
さいたま川の博物館
翌年3月1日(土)～2日(月)
霞ヶ浦ふれあいランド

来年も素晴らしい数多くの作品を期待しています。

(担当:東京事務所)

河川整備基金にご協力ありがとうございます — 300億円をめざして造成を続けています。 —

お陰様で、河川整備基金は、平成16年4月から9月までに約1千5百万円余のご寄附を頂き、9月末で約280億4千万円となっています。これも一重に皆様方のご協力の賜と感謝しております。この基金は、皆様のご理解、ご協力を得て300億円をめざしています。今後ともご協力をお願い申し上げます。

イベント等で募金箱が必要なときは、当財団にお申し付け頂ければお送りさせていただきます。なお、募金箱の回収及び寄付金につきましては、当財団から回収に伺うか又は振込用紙を送付させていただきます。

(担当:総務部)

財団の体制

現在の体制は下記のとおりです。
今後ともよろしくお願い致します。

| | | |
|--------------------|---|-------------|
| 理事 | 長 | 鈴木 藤一郎 |
| 専務理事 | | 小林 正典(7月就任) |
| 常務理事 | | 池田 東雄 |
| 常務理事 | | 山本 雅史(8月就任) |
| 理事 | | 花見 忱(7月就任) |
| 相談役 | | 梅野 康行 |
| 研究顧問 | | 吉川 秀夫 |
| 研究顧問 | | 芦田 和男 |
| 研究顧問 | | 村本 嘉雄 |
| 研究顧問 | | 江川 太郎 |
| 研究顧問 | | 山口 甲 |
| 研究顧問 | | 佐々木 寧 |
| 研究嘱託 | | 中島 秀雄 |
| 河川環境総合研究所長 | | 山本 晃一 |
| 技術参与 | | 佐藤 和明 |
| 総務部長 | | 松下 寿彦 |
| 企画調整部長(兼) | | 小林 正典(7月就任) |
| 研究第1部長 | | 入江 靖(7月就任) |
| 研究第2部長 | | 岸田 弘之 |
| 研究第3部長 | | 小林 豊 |
| 研究第4部長 | | 戸谷 英雄 |
| 大阪研究所長(兼) | | 村本 嘉雄 |
| 研究第5部長(大阪研究部長) | | 持田 亮(8月就任) |
| 子どもの水辺サポートセンター長(兼) | | 山本 雅史 |
| 東京事務所長(兼) | | 戸谷 英雄 |
| 北海道事務所長 | | 金子 雅美 |
| 名古屋事務所長 | | 奥田 一巳 |
| 大阪事務所長 | | 田村 公一(8月就任) |

編集
発行



財団 法人 河川環境管理財団

編集事務局 企画調整部 03(3297)2617
<http://www.kasen.or.jp/>

本部 〒104-0042
東京都中央区入船1-9-12
TEL 03-3297-2600 FAX 03-3297-2620
E-mail: info@kasen.or.jp

河川環境総合研究所・東京事務所 TEL 03-3297-2644 FAX 03-3297-2677
E-mail: info@kasen.or.jp

子どもの水辺サポートセンター TEL 03-3297-2608 FAX 03-3297-2609
<http://www.mizube-support-center.org/>
E-mail: msc@mizube-support-center.org

北海道事務所 〒060-0061
札幌市中央区南一条西7丁目16-2(岩倉ビル)
TEL 011-261-7951 FAX 011-261-7953
<http://www.kasen.or.jp/hokkaido/>
E-mail: info-h@hkd.kasen.or.jp

名古屋事務所 〒450-0002
名古屋市中村区名駅4-3-10
TEL 052-565-1976 FAX 052-571-8627
<http://www.kasen.or.jp/nagoya/>
E-mail: info-n@nagoya.kasen.or.jp

大阪事務所 〒570-0096
大阪府守口市外島町4-18(守口フィットネスリゾート内)
TEL 06-6994-0006 FAX 06-6994-0095
<http://www2.kasen.or.jp/>
E-mail: koheh@osakaj.kasen.or.jp

大阪研究所 〒540-0008
大阪市中央区大手前1-6-4(はなビル7F)
TEL 06-6942-2310 FAX 06-6942-2118
E-mail: info-o@osaka.kasen.or.jp